

# International exchange

## 国際交流

### ラハティ応用科学大学 × 富山大学芸術文化学部連携事業

富山大学芸術文化学部教授 武山 良三



芸術文化学研究科および芸術文化学部では、平成23年度より文部科学省の特別経費を獲得して「芸術文化を起点とした実践的教育モデルの構築（愛称「つままプロジェクト」）」を推進しています。教室内では学ぶことが難しい芸術系の専門教育を実社会での取り組みを通して学ぶことができるよう、地域と連携したさまざまな授業を行っています。グローバルな人材育成についても、海外の協定校と連携して学生が体験的に学習できる授業を検討しています。

本学部では現在、ラハティ応用科学大学（フィンランド共和国）、カペラゴーデン美術工芸学校（スウェーデン王国）、プラハ美術工芸大学（チェコ共和国）、パタナシン芸術大学（タイ王国）との海外交流協定を結んでいます。この中でラハティ応用科学大学とは、高岡短期大学時代から最も長く交流を行っており、教員間にいくつかのシーズがあることから、まずは同校との国際間連携授業のモデルを構築すべく、その可能性を探る特別講義を行いました。

特別講義は、平成26年1月29日（水）、ラハティ応用科学大学で教鞭を執る傍ら、フィンランドでさまざまなデザインプロジェクトを実践されてきた児島宏嘉先生と、同校で基礎教育を担当されていたカリ・ロホコ先生を迎えて行いました。

児島先生は、自身が社会人になった頃は日本人が海外旅行することさえ難しく、公募で得た留学機会で当時最先端のデザインに触れたこと、その中でフィンランドのデザインが生活に根ざしていたことに感銘を受けフィンランドに渡ったこと、当地の方が仕事がやりやすく生活も文化的に豊かであったことからそのまま住み続けたことなどが語られました。

文化の違いを示す逸話として、老人がバスに乗車する時の出来事が取り上げられました。身体が思うように動かない老人が苦勞しているのに誰も助けようとせずただ黙って見ていたことを疑問に思ったと。後日懇意にしているフィンランド人にそのことを話すと、「助けてしまっ

てくれた人にお礼を言わなければならないし訳ない気持ちにさせてしまうことから誰も助けないのだ」との答えが返ってきたということでした。どちらが良い・悪いではなく、文化には違いがあり、それを理解して自分なりに考えていくことの重要性が語られました。

その他にもフィンランドでは、生活と仕事ははっきり切り離されていること、相手に関心を持ってもらうためのプレゼンテーション能力が重視されること、北欧は市場が小さく最初から皆が使えるユニバーサルデザインであること、資源が少ないから使い捨てではなく長く使えるロングライフデザインを基本としていることなどが紹介されました。

ロホコ先生は、長年実践されてきた基礎教育について紹介されました。デッサンやCGなど芸術系の表現力がまだ無い学生を対象に、さらにグラフィックや製品、工芸、ファッションなど学生が目指す専門が異なっても、共通して必要になる創造性の育成に力点を置いた授業が行われていました。このことは芸術文化学部で取り組んでいる全コースの1年生を対象とした共通授業「芸文リテラシー」に共通するところがあり、大変参考になりました。

中でも印象的であった授業は、入学後最初に行われる自己紹介を目的とした授業でした。個人、もしくはグループでテーマを設定し、まるで役者になったような扮装をして行うというもの。仮面などを着け、変身することで、その学生が持っている本性が現れるとの説明がありました。仮面づくりは地元劇団の小道具係から指導を受け、本格的な仕上がりとなっていました。

オリジナルカイトを制作するという授業は、基本的な理論や技術を学習した上で、学生達は自由にカイトを制作し、屋外で実際に飛ばすという内容でした。カイトづくりは初体験という学生がほとんどであるだけに、まさに創造性を鍛える内容になっていました。

芸術文化学部では、平成26年11月に交流展を予定しており、その機会に教員間で具体的な調整を行い、連携授業を具体化していく計画です。



**ラハティ応用科学大学×富山大学芸術文化学部  
連携授業に向けた特別講義**

日時 : 平成26年1月29日(水) 13:00~16:15  
場所 : 富山大学芸術文化学部 B-212、B-213

**特別講義1: 主に学生向け  
DESIGN STORY IN FINLAND**



**Hiroyoshi Kojima**

ラハティで教鞭を執る傍ら、フィンランドでさまざまなプロジェクトを実践されてきた児島宏嘉先生が、自身のデザイン史を例に国際化時代のデザイナーに求められる能力について語りました。

**特別講義2: 主に教員向け  
AIMS OF BASIC STUDY IN DESIGN INSTITUTE LAHTI**



**Kari Lohkol**

ラハティ応用科学大学デザイン学科における基礎的な授業について、カリ・ロホコ先生が課題事例や学生作品を示しながら、創造性を如何にして養うべきか解説しました。

**ラハティ応用科学大学×富山大学芸術文化学部  
連携授業例**

実施時期: ラハティ応用科学大学 平成21年9月  
: 富山大学芸術文化学部 平成21年12月  
テーマ: 「私の一番大事な日」  
内容: 学生がこれまで生きてきた中で最も大切と思った日を取り上げ、タイポグラフィで表現する。  
担当教員: カリ・ロコホ、武山良三



ラハティ応用科学大学の基礎授業の課題として制作・展示



芸術文化学部授業「シンボルデザイン演習」にて課題として制作・展示